

札幌

「引き下げ撤回」訴え

支給日宣伝 審査請求に5人参加

生活保護基準の引き下げが強行されたなか、保護費支給日の29日、札幌市西区のスーパー前で、引き下げ撤回の署名や不服申し立て「審査請求」への参加、支援を呼びかける宣伝が行われました。

道生活と健康を守る会

連合会、道社会保障推進協議会などで行われる生活保護制度を良くする会がビラを配ると、買い物客が次々に受け取り、署名しました。

この日の行動で5人が審査請求への参加を申し込みました。生活保護を受けている男性(47)は「今年6月に父を亡くし、何

とか火葬はできたが、お金がなくてお墓に入れることができない。早くお墓に入れてあげたい」と訴えました。

道社協の沢野天事務局長は「生活保護費の引き下げは受給者だけの問題ではない。さまざまな社会保障制度や最低賃金とリンクしている。生活保護拡充は他制度の拡充につながる」と強調しました。

申し込んだ女性(56)は「お金がないと子どもを大学に行かせられない。子どもにも貧困が連鎖するのでは心配」と語り、別の男性は「障害者年金ももらっているが暮らしていない。仕事も見つからず困っている」と話しました。